

高島市の埋蔵文化財

市内には、364を数える「埋蔵文化財」が存在することを皆さんご存じでしょうか。埋蔵文化財とは、土地に埋まっている文化財のことです。主に「遺跡」とよばれています。遺跡には、古代の人々の営みの痕跡である集落跡や、有力者の亡骸を横穴式石室に葬った古墳、寺院跡や戦国時代の軍事的な施設跡である城跡や館跡など、多くの種類が存在します。この埋蔵文化財の範囲で工事などを行う際は、その内容によって発掘調査が実施されますが、その数は、全国で年間9千件にのぼります。市内でも、100年程前に京都帝国大学が行った鴨稻荷山古墳の発掘調査を皮切りに、マキノ地域の北牧野製鉄遺跡や齊頼塚古墳、北牧野古墳群の発掘調査、今津地域の日置前遺跡発掘による彩色壁画の発見、新旭地域の清水山城館跡や高島地域の溝城下の発掘、朽木地域の朽木氏関連遺跡や庭園の調査、安曇川地域の

田中古墳群や南市東、下五反田遺跡など、数多くの発掘調査が実施されました。特に、マキノ地域の製鉄遺跡は、昭和42年（1967年）、同志社大学による学術調査が行われ、全国でも早い時期に製鉄が行われていたことを示す遺跡として評価されています。また、昨年、安曇川地域の上御殿遺跡から出土した「双環柄頭短剣」

鑄型は、国内に類例がなく中国北方地域のオルドス式銅剣との関連性が指摘されています。このように、埋蔵文化財には、新たな歴史的発見の可能性が秘められています。

今月は、こうした遺跡の真髄に迫る講演会を2週連続で開催します。高島の新たな歴史口マンを探ってみてはいかがでしょうか。

11/23 日 【地域別講演会】
「古代近江の鉄生産 - 継体大王から藤原仲麻呂の時代 -」
 (会場) マキノ土に学ぶ里研修センター

高島における古代の鉄生産のしくみや、当時のヤマト朝廷と高島の古代豪族との関わりを文献と考古の双方の視点から語り、解き明かします。
 (詳しくは広報たかしま 10月号P 33をご覧ください。)

▼時間 13時～16時30分頃

▼内容

講演1 「文献から古代高島の鉄生産を考える」

講演2 「考古学からみた古代製鉄の始まり」

フォーラム

▼定員 120人 ▼参加費 500円

問・申文化財課 ☎(32) 4467 (月～金)

11/30 日 【埋蔵文化財講演会】
「天神畑遺跡・上御殿遺跡の魅力を探る」
 (会場) 安曇川公民館

青井川改修に伴う天神畑遺跡・上御殿遺跡発掘調査では、双環柄頭短剣鑄型の出土ほか、縄文時代の遺構、古墳時代前期～平安時代の川跡や護岸工事跡、奈良時代～平安時代の掘立柱建物跡が検出されるなど、多くの成果をもたらしました。

▼時間 13時30分～16時30分

▼内容

講演1 「祭祀を続けた遺跡の発掘調査を終えて」

県文化財保護協会 中村智孝さん

講演2 「双環柄頭短剣鑄型をはじめとした出土遺物」

県文化財保護協会 中村健二さん

▼定員 50人

(11月1日から申込受付。定員になり次第締切り)

▼参加費 無料

問・申高島歴史民俗資料館 (月・火休館)

☎(36) 1553 FAX(36) 1554

編集感

外の空気が肌寒くなったと思ったら、今年も残すところあと2か月。すっかり秋らしくなりました。最近「秋バテ」という言葉があるようで、体がだるい・食欲がないなどの夏バテに似た症状がみられるようです。適度な運動をしたり、ぬるめのお湯にゆっくり浸かってリラックスする、温かい飲み物で血液循環を良くすることも「秋バテ」解消に効果的とのこと。

年末に向けてますます忙しくなるこの時期だからこそ、体のことを労わってあげましょう。(E)

